

令和3年4月



# 令和3年度 大田区立仲六郷小学校 学校経営計画

大田区立仲六郷小学校  
校長 山本 秀一

## 1 はじめに

大田区立仲六郷小学校は、歴代の教職員・学校関係者の努力、保護者・地域の方々の理解とあたたかい協力・支援に支えられ、今年度で開校64周年を迎えることとなった。

まさに、「不易流行」の精神を大切にしたい。これまで築かれてきた本校の歴史と伝統、特色ある教育活動のよさを基盤としつつ、未来を創り生き抜く力を備えた子どもたちの育成を目指す、柔軟でしなやかな学校、常に進みつつある学校でありたい。

近年本校では、児童数の減少による学校の小規模化の傾向がみられる。今年度は43名2学級の新1年生を迎え、学校全体で児童数247名(4月当初)10学級となった。小規模な学校ならではの特色や利点を生かしつつ、保護者や地域からの信頼を深め、さらに魅力のある学校づくりに向けて努力していきたい。よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を学校と社会とが共有し、学校において必要な教育内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを明確にしなが、社会との連携・協働によりその実現を図っていく。

令和2年度は、社会全体が新型コロナウイルスによる影響を大きく受けた1年であった。

学校においても、年度当初から2か月間に及ぶ臨時休業を余儀なくされ、6月からの授業再開後も、感染防止対策や教育課程の大きな見直しが必要となった。様々な教育活動に制限が必要となる中、本校においても「安心・安全な生活」と「学びの充実・学びの保障」の両立を目指してきた。感染症の状況は常に流動的であり、教育活動をスムーズに推進することは困難であったが、国から示された「衛生管理マニュアル」、東京都から示された「都立学校の学校運営ガイドライン」、大田区教育委員会「大田区立学校における新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」等を基本とし、状況に応じた対応策を講じてきた。

令和3年度も、その延長線上でのスタートとなる。教育課程を編成するにあたり、困難な状況となってもしなやかに対応することができる「レジリエンス」と、その基盤となる人・モノ・しくみ・環境等に関する「学校の持続可能性」を高めることを大切にしたい。

昨年度から全面実施となった小学校学習指導要領は、「社会の変化が激しく、未来の予測が困難な時代の中で、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら判断して行動し、よりよい社会や人生を切り拓いていく力」の育成を理念としている。厳しく見通しのききにくい時代であるからこそ、ますますそのような力は必要となるであろう。

感染症による影響を負の面ばかりで見つめるべきではない。学校におけるカリキュラム・マネジメントの在り方を、ゼロベースに近い形で見直すことができる絶好の機会でもある。教育課程に限らず教職員の働き方やGIGAスクール構想に基づく「1人1台端末」の有効活用等の諸課題も包括しながら、令和3年度の学校経営計画を示す。

## 社会の変化やニーズを踏まえた教育施策

### 国の法令・施策・学習指導要領

社会に開かれた教育課程

育成を目指す資質・能力 / カリキュラム・マネジメント / 主体的・対話的で深い学び  
(知識・技能 思考力・判断力・表現力 学びに向かう力・人間性)

### 東京都教育ビジョン 基本的な方針から抜粋

- ・全ての児童・生徒に確かな学力を育む教育
- ・社会の持続的な発展をけん引する力を伸ばす教育
- ・グローバルに活躍する人材を育成する教育
- ・夢と志をもち、可能性に挑戦しようとする力を育む教育
- ・豊かな心を育て、生命や人権を尊重する態度を育む教育
- ・健やかな体を育て、健康で安全に生活する力を育む教育
- ・オリンピック・パラリンピックの精神を学び、育む教育
- ・教育の質を向上する「働き方改革」
- ・質の高い教育を支える環境の整備
- ・家庭・地域・社会と学校とが連携・協働する教育活動

### おおた教育ビジョン

#### ビジョンⅠ

社会の変化に主体的に対応し、未来を創る力を育成する

#### ビジョンⅡ

「知・徳・体」の調和のとれた成長を図り、豊かな人間性を涵養する

#### ビジョンⅢ

意欲にあふれ、個性と可能性を最大限に伸ばす学びの場を創出する

#### ビジョンⅣ

地域の特色を生かし、学校・家庭・地域が連携・協働して子どもを育てる

## 大田区立仲六郷小学校 教育目標

日々新しく伸びゆく仲六の子

① かよくする子

② ながえる子

③ ゆたかな子

はたら④子

⑤ じけない子

## 2 学校経営の中期的コンセプト

### 子どもたちにとっての「大好きな学校」

- ・一人一人が目標をもち、安心・安全で楽しい学校生活を送ることができる。
- ・友達や先生、その他様々な人との関わりを通じて、自分のよさを発揮したり人のよさを感じたりすることができる。
- ・楽しく価値ある学習・活動ができる。
- ・充実した活動を通して学力や体力等が向上し、それを自ら実感し自信・自己有用感もつことができる。

### だれにとっても「大好きな学校」

#### 教職員にとっての「大好きな学校」

- ・同僚性が高い職場であるとともに、ライフ・ワーク・バランスが良好な環境である。
- ・教師としての力量の向上を図ることができる。
- ・指導を通して子どもの変容・成長を実感し、喜びを感じることができる。
- ・児童・学校・地域への愛情を感じ、自らのアイデアと力で貢献しようとする意欲をもつことができる。

#### 保護者・地域の方々にとっての「大好きな学校」

- ・子どもが生き生きと学校に通い、「知・徳・体」の調和のとれた成長をしている。
- ・学校の取組がわかりやすく、創意工夫したり、指導方法を改善したりしながら活動に取り組んでいる。
- ・学校とのつながりが深く、学校の教育活動にも協力、参画、貢献することができる。

### 3 令和3年度の重点と方策

#### 学校の持続可能性を高める

##### (1) 児童の学びの持続性を高める

###### ア 学力の向上 【**か**んがえる子】

- カリキュラム・マネジメントによる「育成すべき資質・能力」を重視した学びづくりと一貫性ある指導
  - ・ 全教員で教育課程や指導計画・評価規準を理解・共有する。
  - ・ 教科間の関連性や系統性を意識した指導に努めるとともに、総合的な学習の時間を中心に探究的な学習活動の充実を図る。
- ICT を効果的に活用した新しい学びのかたちづくり
  - ・ 一斉学習において「わかる授業」を行うための ICT の活用に確実に取り組む。(電子黒板、書画カメラ、デジタル教科書・デジタル教材等の活用)
  - ・ インターネット、まなびポケットを活用した学習について研究・開発・運用を進める。(個別学習、協働学習、プログラミング学習等の充実)
- 基礎学力の確実な定着
  - ・ 「仲六学習スタンダード」に基づき、学習の準備や取り組み方に関する丁寧な指導を徹底する。
  - ・ 授業のユニバーサルデザイン化を意識した指導の改善・工夫に取り組む。(環境調整、発問や指示、板書・教材提示等)
  - ・ 児童の語彙獲得・拡充の重視し、言語活動の充実を図る。(国語や読書活動を中心に、あらゆる教科・領域において)
  - ・ 単元全体や1単位時間の学習における、見通し(めあてや学習計画)と振り返り(学習活動を通してわかったこと、できるようになったこと)を重視し、明確化を図る。
  - ・ 既習内容の定着を目指した「復習タイム」を実施する。(朝学習や授業開始時等)
  - ・ 小規模校の特性を生かした個に応じた指導の充実と補習等によるフォローアップに努める。(まなびポケットを活用した家庭学習を含む)
- 体験的な学習の充実、思考力・判断力・表現力の育成
  - ・ 全ての教科・領域において、児童が実際に見たり触れたり体験したりする学習活動を大切する。
  - ・ 理科や総合的な学習の時間を中心に、「ものづくり」を意識した取組を開発する。
  - ・ 児童にアウトプットさせることを意識した学習活動や授業展開を日常から工夫する。
  - ・ 連合音楽会、運動会、スピーチ大会やヒブリオバトル、学習発表会、その他の諸発表会等の学校行事を核として計画し、多様な表現活動の機会を設ける。
  - ・ 教員が主導し、外国語指導員と連携して外国語及び外国語活動の授業の充実を図る。

###### イ 人との関わりを大切にす活動の重視・豊かな心の育成

###### 【**な**かよくする子・**こ**こ**ろ**ゆたかな子】

- 互いの信頼と児童の安心感や所属意識を高める学年・学級経営の充実
  - ・ 学校生活調査や Hyper-QU の活用等により、望ましい人間関係づくりに努める。
  - ・ 学級活動(クラスタイム)や諸行事の活動等を通じて、児童所属意識や自己有用感を高める。

- 人との関わりを重視した学習や多様な活動の計画・工夫
  - ・ 全校であいさつ指導を重点的に取り組む。「あいさつレベル5」を指標として、児童一人一人のよりよいあいさつにつながる指導を行う。
  - ・ 複数学年での交流学習やなかよしキッズタイム（縦割り班活動）等の異学年交流活動を設定し、その充実を図る。また、縦割り班での新たな取組（あいさつ運動や清掃活動等）を拡充する。
  - ・ 小中一貫教育や保幼小連携教育、保護者や外部人材等を活用した学習活動、特別支援学校の児童や高齢者等、多様な人と関わる学習活動を設定し、その充実を図る。
  - ・ オリンピック・パラリンピック教育について、総合的な学習の時間を中心に児童の「ボランティアマインド」「障がい者理解」「豊かな国際感覚」の育成を図る。
- 道徳教育や読書活動、関わり合って表現する活動の充実
  - ・ 道徳科を要とする道徳教育の計画的な実施と活動の充実を図る。
  - ・ 年間を通して確実な図書室利用を進め、特に年3回の読書週間を中心に読書学習司書と連携した多様な読書活動を工夫することによって、児童が本に親しむ機会を確保する。（読書週間における朝読書等への重点的取組を含む）
  - ・ 自然や美しいものに感動する心を育成するための活動を工夫する。（遠足や校外学習、移動教室等の行事、音楽朝会を含む音楽校内イベント、常設の児童絵画作品展等）
  - ・ 「仲六小のやくそく」や「小中一貫教育 志茂田中学校区スタンダード」に基づき、規範意識の向上と基本的な生活習慣の定着を図る。

## ウ 体力の向上・ねばり強く取り組む意欲と態度を育む活動の重視

【はたら<sup>④</sup>子・<sup>④</sup>じけない子】

- 体育の授業・体育的活動・健康教育の充実
  - ・ 楽しさと運動量を常に確保した体育の授業づくりを行う。体育的活動（仲六道場・体育朝会・運動週間・高架下ひろばの活用）を計画的・重点的に実施することにより、児童への運動への意欲や体力・運動能力を高める。今年度重点＝投力・跳力・持久力
  - ・ オリンピック・パラリンピック教育、体育健康教育授業地区公開講座等、様々な学習活動を通して健康教育や食育の充実を図る。
- 学習活動や児童活動、学校行事の充実
  - ・ 発達段階に応じて、自ら考えたて計画したり、工夫して取り組んだり、振り返って改善を図ったりすることができる活動を工夫する。
  - ・ 様々な活動において適度な「負荷」をかけることを意識し、困難な課題に対峙しても簡単にくじけたりあきらめたりしない児童の育成を目指した活動を工夫する。
- キャリア教育の充実
  - ・ キャリアパスポートを活用して、学習や活動の見通しをもったり振り返ったりする活動を通して、新たな意欲につなげたり将来の在り方・生き方を考えたりする活動を行う。
  - ・ 発達段階に応じて、諸活動を通じ働くことの意義や楽しさ、自分の在り方を考えさせる活動を位置付ける。

## エ 児童理解に基づく特別支援教育の充実・適応に向けた取組

【児童への支援、適応指導】

- ・ 児童一人一人の理解に努め、学習のみならず生活や適応の面でも個に応じた指導を行う。
- ・ サポートルーム拠点校としての強みを生かし、担任・専科と巡回指導教員や特別支援教室専門員、巡回心理士等との連携した指導を大切にす。

- ・ 校内委員会や生活指導全体会等を通して児童の課題を組織として共有するとともに、スクールカウンセラーや登校支援員等（必要に応じて子ども家庭支援センター、児童相談所、SSW、適応指導教室等の外部人材を含む）の人材を生かし、チームとしていじめ対応や不登校・不適応の児童への支援を計画的・継続的に行う。

## （２）学びの持続可能性を支える環境・体制づくり

### ○ 学校運営体制

- ・ 企画運営委員会が組織の中心となって課題を統括、共有するとともに、教育課程等の実施や組織について柔軟な対応ができるようにする。
- ・ 学校組織全体の整理、スリム化を目指し、多角的に校務改善を推進する。
- ・ 学校予算が十分に生かされるように事務職員が中心に情報共有化と執行管理に努める。
- ・ 会計年度任用職員等を生かした、しなやかな運営体制づくりを進める。

### ○ 学校安全

- ・ 安全管理について、教職員で施設等の安全点検を計画的に進めるとともに、感染症対策等の施設管理等についても教職員に加えて会計年度任用職員等の協力も得ながら徹底する。
- ・ 生活安全については、日常の指導に加えて、必要に応じて外部人材と連携し、セーフティ教室、情報モラル教室、薬物乱用防止教室（6年）、不審者対応訓練等を計画的に行う。また、状況に応じて日常の感染症防止対策等、健康・衛生に関する指導を徹底する。
- ・ 交通安全については、日常の指導に加えて、必要に応じて外部人材と連携し、交通安全教室や登下校の指導等を計画的に行う。
- ・ 災害安全については、教科等における学習指導に加えて、必要に応じて外部人材と連携し、実践的な避難訓練を計画的に行う。また実施状況により、随時、緊急時対応マニュアルの見直しを行い共通理解を図る。。

### ○ ICT環境整備

- ・ ICT活用がスムーズに進められるよう、ICTサポーター等と連携した環境整備や研修、指導を進める。

## （３）教職員・組織の持続可能性を高める

### ○ 教職員のスキル向上

- ・ 自己申告等を通じて各職・職層に応じたスキルの向上を常に目指す。
- ・ 教員は、校内研究や定期的に行う相互授業観察（ペア研修年2回・提案授業年1回以上）、若手教員育成研修（校内における研修）、計画的なOJT、区や都が実施する専門性向上研修（off-JT）等を通して、教員一人一人の授業力・指導力の向上を図る。また、教員一人一人が課題意識をもって自己啓発・自己研さんの充実を図る。

### ○ 教職員の働き方、ライフ・ワーク・バランス

- ・ カリキュラム・マネジメントを通じて、教育課程の改善（スクラップ&ビルド）に努めるとともに、取組を通じて教職員の意識改革を図る。
- ・ 学校全体の業務改善に向けて、教員・事務職員・用務職員、会計年度任用職員の業務の見直しを進め、学校組織の連携力を強化する。
- ・ 企画運営委員会が組織の課題を統括し、諸会議の効率化・軽減を図る。
- ・ 学習指導において各教員の負担軽減を主な目的として、実態や教員の特性を考慮しながら、「一部教科担任制」等の授業の試行を積極的に試行する。
- ・ ICTを活用した業務改善を進める。（教員の週案、家庭からの欠席連絡、学校からの通知・おた

より等の電子化の試行)

- ・ 校務におけるプロジェクト・チーム (PT) を構成して主体的な課題解決を図るとともに、運営委員会からの諮問に対して検討・提言する。
  - ① ICT活用推進PT
  - ② 開校65周年企画PT
  - ③ ライフ・ワーク・バランス PT
  - ④ ビブリオバトル・ビブリオトーク開発 PT (図書館教育部 担当)
  - ⑤ 学校広報 PT (経営支援部 担当)
- その他、随時必要なチームを立ち上げ、課題に対応する。

#### (4) 家庭・地域とのつながりの持続可能性を高める

##### 【家庭・地域と共に歩む開かれた学校づくり】

- 公開や広聴の機会
  - ・ 学校公開や保護者会等の機会を中心に、学校教育に関する啓発を進めるとともに、アンケート等を活用して保護者からの広聴活動に努める。
  - ・ 保護者を対象とするアンケート(学校公開、学校行事、学校評価)を実施し、分析・考察や公表を通じて学校力と信頼を高める。
- 学校からの積極的な情報発信
  - ・ 学校広報の充実、特に学校ホームページの充実を図り、情報発信ツールの中核とする。学校広報PTを中心に企画し、全教職員で情報発信に努める。(目標値:なかくDIARY年300号以上/月25号以上)
- 家庭やPTAと連携した活動
  - ・ 家庭学習充実のため、保護者との連携に努め、必要な支援を行う。家庭学習の在り方については、タブレット端末の活用を積極的に推進する。
  - ・ PTA活動との連携、PTA行事や地域行事への協力・参画
- 地域との関わりを重視した学習活動
  - ・ 町探検(地域めぐり)、幼稚園・保育園・中学校・特別支援学校、高齢者施設等と連携した学習活動を実施する。また、地域人材・外部人材を招いての活動等も積極的に行う。
- 学校支援地域本部「スクールサポート仲六」のサポートによる地域力の活用
  - ・ 夏休みわくわくスクール、キャリア教育支援等における地域人材の活用を進める。
  - ・ その他、学校の課題やニーズに応じた対応に取り組む。
- 学校評価に基づく学校経営計画及び取組の改善
  - ・ 地域教育連絡協議会「ふるさと会」による学校行事や学校評価等への参画と、それに基づく学校改善の取組を推進する。